

豊山町第5次総合計画の全体構成（検討資料）

はじめに

■豊山町の現状

- ・県内市町村最小面積ながら、県営名古屋空港を有し広域交通拠点の位置にある。
- ・町域の5割弱が空港・道路などの公共用地で近年宅地は増加傾向。
- ・人口は直近の20年程度は増加傾向(H27年15,000人超)。
- ・MRJ生産等、空港の立地を活かした産業が活発。農業は停滞気味。
- ・決算額は歳入・歳出額ともに平成25年度以降増加傾向。
- ・財政力指数は平成19年度以降1以上を維持。

■社会経済情勢等

- ・人口減少社会への転換
- ・少子高齢化の進展
- ・地球環境問題の深刻化
- ・大規模災害等への備え
- ・経済・交流のグローバル化の進展
- ・ICT、AIなどの技術革新
- ・公共建築物・インフラなどの老朽化
- ・多様な参画と協働意識の高まり
- ・地方行政の新たな展開
- ・リーゾンによるスーパーマーケットの形成

■町民意識調査

- ・「住みやすい」との評価は8割、定住意向は6割あるものの、割合は低下傾向
- ・町外に移りたいとする理由のトップは「交通の便が良くない」
- ・町政全般(まちづくり)の満足度は低下
- ・第4次後期計画の施策評価
「満足度」が高いのは、①ごみの減量化、再資源化、②適切な土地の使い方
- 「不満度」が大きいのは、①利便性の高い公共交通、②安全で快適に利用できる道づくり
- 「重要度指数」が高く「満足度指数」が低い「重点課題」に該当するのは、「安全で快適に利用できる道づくり」、「利便性の高い公共交通」、「防犯・交通安全体制の強化・意識の高揚」

■庁内部会の検討

- SWOT分析によるまちの強み(●)・弱み(△)の認識(主な意見)
- 空港をはじめとした拠点施設の立地、コンパクトなまち、
 - 人口増加都市
 - △交通基盤の脆弱さ、従来からの地場産業の停滞、地域まちづくりの担い手不足 など

■町民討議会

- まちの良いところ(○)、悪いところ(▲)の認識(主な意見)
- 空港の立地、航空関連産業、「イチロー」
 - ▲バス等の交通利便性、歩道が危険、新旧住民構造 など

■まちづくりの主要課題

1 都市基盤 快適で活気あふれる コンパクトなまち	2 環境 自然にも人にも優しい 持続可能なまち	3 安全・安心 安全・安心で住みやす さを実感できるまち	4 福祉・健康 助け合い、支え合う健 康であたたかなまち	5 教育・文化 いきいきとした豊か な心を育むまち	6 産業 にぎわいを生み出す 個性豊かなまち	7 協働・行財政 住民と行政がともに 考え、ともにつくる信 頼のまち
①空港・北部市場を活かしたまちづくり ②新たな公園・緑地・散策路の整備 ③安全で快適に利用できる道づくり ④下水道の普及促進	①環境衛生の維持保全 ②家庭ごみの減量化、リサイクルの促進 ③省エネルギー化や再生可能エネルギーの普及	①公共交通の利便向上 ②大規模災害への備え ③地域の防災力の強化 ④治水対策の強化 ⑤避難施設空白地域の解消 ⑥防犯・交通安全対策の強化・意識の高揚	①待機児童の発生防止 ②地域での見守り・子育て支援の強化 ③介護の負担軽減、介護予防の推進 ④認知症対策 ⑤社会保障費の増加 ⑥あらゆる世代の健康づくり	①学校教育環境の充実 ②いじめ、不登校、子どもの貧困対策 ③学校給食提供体制の充実 ④学校における働き方改革 ⑤文化・芸術活動を発表する機会の拡充 ⑥スポーツ活動の充実	①新たな企業誘致・産業集積 ②観光・交流の推進 ③町内商工業事業者の育成 ④農地・農家の減少への対応	①協働意識の向上 ②自治会の活性化 ③多様な人の活躍推進 ④外国人住民との共生 ⑤適正な行財政運営 ⑥SDGsを踏まえた施策実施 ⑦インフラ・公共施設の老朽化対策 ⑧安定的な財源の確保

第1編 基本構想

1 まちの将来像

【まちづくりの基本理念】 **小さくて キラリ と輝くまちづくり** ※第4次総合計画を踏襲

【まちの将来像】 **一人ひとりが輝く 暮らし豊かな アーバンビレッジ**

2 まちづくり目標

まちづくり重点目標（分野横断的な目標）

【まちづくり重点目標1】

「人」がキラリと輝くまち

【まちづくり重点目標2】

「暮らし」がキラリと輝くまち

【まちづくり重点目標3】

「産業」がキラリと輝くまち

基本目標（分野ごとの目標区分）

【基本目標1】

都市基盤

快適で活気あふれる
コンパクトなまち

【基本目標2】

環境

自然にも人にも優しい
持続可能なまち

【基本目標3】

安全・安心

安全・安心で住みやす
さを実感できるまち

【基本目標4】

福祉・健康

助け合い、支え合う健
康であたたかなまち

【基本目標5】

教育・文化

いきいきとした豊か
な心を持った人を育むまち

【基本目標6】

産業

にぎわいを生み出す
個性豊かなまち

【基本目標7】

協働・行財政

住民と行政がともに考
え、ともにつくる信
頼のまち

3 まちづくりの指標

(1) 人口・世帯

- 人口 : 16,400人
- 世帯数 : 8,000世帯

(2) まちづくり重点目標に関する指標

(参考) 第4次総合計画

- 「人」がキラリと輝くまち
●町政に関心がある住民 : 75%
- 「産業」がキラリと輝くまち
●製造品出荷額等 : 1,200億円以上、
商業販売額 : 4,400億円以上
- 「生活空間」がキラリと輝くまち
●豊山町は住みやすいと評価する住民 : 90%
- 豊山町に今後も住み続けたいと考える住民 : 75%
- まちづくり活動などへの参加
意向がある住民 : 67%
- 15歳未満人口の構成割合 : 15.4%

4 土地利用構想（土地利用の基本方針）

1 住環境の維持・改善

2 地域の強みを活かした
土地利用の推進

3 都市と自然の調和・共存

5 基本構想の推進のために

○持続する行政運営

○計画の進行管理

○協働のさらなる推進

施策体系（検討資料）

第4次総合計画	
基本目標	基本施策
目標1 快適で活気あふれるコンパクトなまち	1 土地利用 2 公園・緑地 3 道路 4 上下水道
目標2 にぎわいを生み出す個性豊かなまち	1 商工業 2 農業 3 観光 4 雇用・勤労者福祉
目標3 安全・安心で住みやすさを実感できるまち	1 住宅・宅地 2 交通機関 3 景観 4 環境衛生 5 消防・防災 6 防犯・交通安全
目標4 地球にも人にも優しい持続可能なまち	1 自然との共生 2 循環型社会 3 エネルギー
目標5 助け合い、支え合う健康であたたかなまち	1 健康づくり 2 地域福祉 3 子育て支援 4 高齢者福祉 5 障がい者福祉 6 医療保障
目標6 いきいきとした豊かな心を持った人を育むまち	1 生涯学習 2 家庭教育 3 学校教育 4 文化財 5 芸術・文化
目標7 住民と行政がともに考え、ともに作る信頼のまち	1 協働 2 コミュニティ 3 国際化 4 行政運営 5 財政運営 6 広域行政

第5次総合計画	
基本目標	基本施策
目標1「都市基盤」 快適で活気あふれるコンパクトなまち	1 土地利用 2 公園・緑地 3 道路 4 上下水道
目標2「 <u>環境</u> 」 自然にも人にも優しい持続可能なまち	1 <u>住宅・景観</u> 2 <u>環境衛生・循環型社会</u> 3 <u>自然との共生・エネルギー</u>
目標3「 <u>安全・安心</u> 」 安全・安心で住みやすさを実感できるまち	1 交通機関 2 消防・防災 3 防犯・交通安全
目標4「 <u>福祉・健康</u> 」 助け合い、支え合う健康であたたかなまち	1 健康づくり 2 地域福祉 3 子育て支援 4 高齢者福祉 5 障がい者福祉 6 医療保障
目標5「 <u>教育・文化</u> 」 いきいきとした豊かな心を育むまち	1 生涯学習 2 家庭教育 3 学校教育 4 <u>芸術・文化</u> 5 <u>スポーツ</u>
目標6「 <u>産業</u> 」 にぎわいを生み出す個性豊かなまち	1 商工業 2 農業 3 観光 4 雇用・勤労者福祉
目標7「 <u>協働・行財政</u> 」 住民と行政がともに考え、ともに作る信頼のまち	1 協働 2 コミュニティ 3 <u>交流・共生</u> 4 行政運営 5 財政運営 6 広域行政

変更理由

- ①基本目標の順番について、だれもが住み続けられる・住み続けたいまち、安心して豊かに暮らすことができるまちを目指すとする将来像にあわせて変更した。
- ②基本施策の構成について、各施策のこれまでの取組内容や今後の展開方向を踏まえて、関連性があり一体的な取組として展開することが効果的であるものを統合した（「住宅・宅地」と「景観」、「環境衛生」と「循環型社会」、「自然との共生」と「エネルギー」、「文化財」と「芸術・文化」を統合し「スポーツ」を新たに追加）。
- ③基本施策の名称について、社会経済情勢や政策動向などを踏まえ、適切な用語に変更することとし、「国際化」は地域での外国人との共生（多文化共生）やインバウンド観光などの交流の視点も重視する観点から「交流・共生」と変更した。